

まちかね山 吹奏楽団

第9回定期演奏会

——大塚先生とテューバの出会いはいつだったのでしょうか？

大塚：僕は、小学校四年生のトランペットが最初だったんです。運動会の鼓笛隊ですね。かっこいいなって憧れて始めました。でも、五年生の時にトロンボーンに欠員が出たら志願してトロンボーンに移って、六年生の時にテューバに欠員が出たら志願して。それで降はずっとテューバです。中学校は東金市立東金中学校で、当時は全国大会に出場するような学校だったので、そこからどうぶり漬かりましたね。高校年生の時に音楽大学に行きたいなと思うようになって、今になります。ただ、テューバを選んだ事を後悔する時も多いですよ。今日みたいに雪の日に担いでくると後悔しますよね（笑）

——大塚先生は現在オーケストラ奏者として活躍なさっていますが、普段はどのような活動をされておられるのですか？

特集！ 大塚先生 インタビュー

まちかね山吹奏楽団第9回定期演奏会の客演奏者としてお招きした大塚哲也先生に、当団の練習に初めてお越しいただいたのは2月11日のことでした。

雪の降る合宿所にお越しいただいた大塚先生と、当団の団員数名による「テューバ談義」を中心に、アットホームなインタビューとなりました。

（敬称略）

大塚：僕が所属する東京フィルハーモニー交響楽団（以下、東フィル）は、普通のステージコンサートとオペラを主軸に活動しています。ダブルキャストなので、常に二つのオーケストラが同時にコンサートをできるんです。それに加え、東フィルは日本で一番いろんな種類の活動をしています。「題名の無い音楽会」などのテレビ番組の収録や、芸能人のバックで演奏したり、音楽教室と呼ばれる学校訪問も行いますね。

楽器を教える仕事もその合間に実施しています。それから、室内楽の活動も大切にしたいので、金管アンサンブルやユーフォニアムとテューバでのアンサンブルも組んでいます。あとは、時々（今回のような）ソロで呼ばれることもありまうので、オーケストラや吹奏楽と合わせの練習がありますし、それぞれの活動に対して個人的に練習をする時間を取ったりしますね。お蔭様で年中忙しくしています。去年二年間では、まる一日休めたのは七日しかなかった程です。



——先ほど「題名の無い音楽会」という話が出ましたが、テレビに映られることもあるんですか？

大塚：はい、結構ありますね。多い時は週に二回くらいどこかで映っていると思いますよ。

——では、「題名の無い音楽会」を見ていれば、大塚先生にお会いできそうですか？

大塚：会えますー会えますー！

ただ、あれは収録がいつ放映されるのかわからないんです。忘れた頃に放送されることもあれば、収録後すぐの時もあります。他には、BSの番組で「あなたの街で夢コンサート」でも会えますね。あと、一番多くの方が見られるのは、大晦日に放映される（カウントダウン曲が終わった瞬間に、新年を迎えるように演奏される）「東急ジルベスターコンサート」ですね。

テレビでは映像に映らなくても、演奏だけ流れていることも多いですね。ゲーム音楽ですとか、「名曲アルバム」だったり。「名曲アルバム」の演奏は、使いまわしているわけじゃなくて、一回一回きちんと収録しているんですよ（笑）

おもしろテューバ

○×クイズ

- Q1 「テューバ」と呼ばれる楽器は、紀元前からあった？
- Q2 テューバは管の長さが10メートル以上ある
- Q3 テューバは金属でできているため、金管楽器である
- Q4 現在のテューバは、サキソフォンの親戚関係にある
- Q5 今回の客演の大塚先生の肺活量は、一般人男性の平均とほぼ同等である

【正解と解説は四ページにー！】

——「名曲アルバム」は、放送の時間としては五分と短いですが、収録の際はもつと長いのですか？

大塚…普通は編集でカットしたり、何度が収録していい所だけをつなぎ合わせることをするんですけど、あの番組ではカットせず四分四五秒から四五〇秒の間に収めるルールがあるんです。

現場では実際にストップウォッチを持って計っていて、「すいませーん、二秒余っちゃいました」と言われるとやり直しになります（苦笑）。カットなどは事前に決めておいて、時間を算出して後は現場で対応するという、本当にアナログな方法で収録していますね。

——本当に色々な番組で演奏されているんですね。

大塚…あとは、東フィルではないのですが、今回演奏会で「ハウルの動く城」をされますよね。あの映画のサウンドトラックでは、僕も吹いているんです。

オーケストラは新日本フィルハーモニー交響楽団ですが、当時テューバの杉山康人さんがウィーンに行くために欠員が出て、お手伝いで出演したんです。

——ということは、久石譲さんと御一緒にお仕事をされたこともあるんですね。

大塚…はい。久石さんのお仕事、特にジブリの収録は、お金がかかっている

ので、大掛かりで驚かされますね。コンサートホールに大きなスクリーンを置いて、実際の映画の映像を投影してそれに合わせて演奏したりするんです。そんなわけで、「ハウルの動く城」には縁があるんです。

☆難しいのは「ストップ・アンド・ゴー」の繰り返し

——ところで、オーケストラでのテューバは一般的に出番が少ないというイメージがあると思いますが、実際の所はどうなんですか？

大塚…実際そうかもしれないですね（笑）。オーケストラの場合は休んでいる時間がすごく長いので…忙しいか暇かと言われたら、暇かもしれないですね。

——休んでいるときは何をされていますか？

大塚…どこまで本当の話をして、どこまで綺麗ごとを言っているかわからないですけど、正直なところ、ぼーっとしていますね（笑）。

オーケストラでは雄壇の上で一番後ろの席なので、僕は人間観察をしていることが多いですね。ただ、難しいのはオーケストラでは「ストップ・アンド・ゴー」の繰り返しなので、ひどい時は三〇分休んだあとに、ピアノで「ブン」って吹かなきゃいけなかったり。

——少し難しい話になるかもしれませんが、せんが、オーケストラにおけるテューバはどのような役割を担っているのでしょうか？

大塚…テューバという楽器は、実は作曲者によって位置づけが違います。例えば、作曲者のお国柄で考えた場合、ワグナーとかリヒャルト・シュトラウスやマーラーなどのゲルマン系の作曲者は管楽器の「員」として扱うんです。当たり前かもしれないけど、ホルンの五

番目だったり、トロンボーンや四番だったり、ファゴットの補強で使ったりという扱いになるんです。

一方、チャイコフスキーやリムスキー・コルサコフやラフマニノフのようなロシアの作曲者は、コントラバスの補強、もしくはその一部としてテューバを扱っています。同じ国、同じ作曲者でも、時代によっても役割が変わっていくこともあります。ケース・バイ・ケースで対応しています。そういうキャラクターの違いは、誰も気付かないところで変えています。それが面白いところです。



——それらの役割によって、楽器を使い分けされたりするのですか？

大塚…しますね！楽器奏者には二通りあるんですが、一本の楽器で何でも対応して、楽器を変えたくないって人もいますし、スタイルによって使い分ける人もいます。僕は後者ですね。

——ちなみに大塚先生は全部で何本楽器を所有しておられるのですか？

大塚…新しい楽器を買うときに、今持っている楽器を手放して買う人と、ずっと持つちゃう人というんですが、僕は「持つちゃう」ほうです。全部で…

八本持ってますね（笑）

——八本…ましかねのテューババートより多いですね。楽器は全て御自宅に置いておられるのですか？

大塚…自宅に置いておくと、カミさんに邪魔だと怒られるので（笑）

二本は常に車のトランクに積んでありますね。二本はあまり使っていないので、実家にあります。後は、オーケストラの倉庫とか、分散して置いてあります。とにかく、家に置いておくと嫌がられるのでね（苦笑）。

——いろんな楽器を使い分けておられるんですね。

大塚…他には、自分で持っているわけではないんですが、今所属している東フィルはオペラを演奏する機会が非常に多いので、「チンバゾン」という楽器も演奏します。今年秋に新国立劇場でヴェルディのオペラをするのですが、それはチンバゾンで出演します。

その時期は二日おきで本番が入っていて、その間にシュトラウスのオペラが入っているんです。そうすると、チンバゾン吹いてテューバを吹いてチンバゾンを吹いてテューバを吹いて…ってやらなきゃいけない時もある大変ですね。

——オペラで演奏するのと、スタジオでのコンサートとは、雰囲気は違いますか？

大塚…違いますね。オペラとかバレエは、結構おもしろい感じがします。

オーケストラピットに居る奏者が、プツと笑ったり、本気で笑ったりすることもあります。

☆オペラでは…オーケストラピットを観察しよう！

— そんな笑えるような面白いことあるんですか？

大塚…オペラやバレエは、本当に色々ありますね。ワーグナーだと上演時間が六時間にもなります。そうすると、それだけ何かが起こる確率も高くなるわけですね。

「昨年に最高に面白かったのは、プロコフィエフのシンデレラのパレエをやったんですが、その中で、カボチャの馬車にシンデレラが乗るシーンがあつて、馬車がステージを一周して去つて行つて幕が降り、休憩になるんです。それが、公演の最終日に馬車をひっぱる人がはりきりすぎて、遠心力でカボチャの馬車が「ズドン」と転んでしまい、シンデレラが馬車から吹っ飛ばされちゃつて、そのまま幕が降りて休憩に強制的に突入（笑）

— 吉本新喜劇みたいですね（笑）

大塚…仲間内では「交通事故で行けなくなつたから終わりじゃね？」つて話題になったり。結局、第二幕は何事も無かつたように始まつたんですけどね（笑）

— 六時間も本番が続く時は、どのように集中力を維持されますか？

大塚…長いオペラだと、休憩が四五分あったりするので、その間に御飯を食べたり、人によつては外にでかけちゃったりしますね。

あとは、暗黙の了解でもあるんですが、一〇分以上出番がないと、出て行つていつてルールがあるんです。そうなる

テューバなんて、そんなのばかりですから、脱出の天才ですよ（笑）。でも、オペラに慣れていないうちは、舞台上に戻るタイミングを逃して、バタバタと入つたり入るうとしたら静かな部分になつて、三分くらい固まつたり（笑）。

ほかにも日本では禁止なんですけど、ヨーロッパだと裏でお酒が呑めるので、ペロペロになつちやつて演奏すべき時に遅刻しちゃつたつて話も聴きますね（笑）

☆ブレンドの美学…

— 大塚先生はオーケストラやオペラの活動をされる一方で、吹奏楽にも携わつておられますが、吹奏楽にはどんな魅力を感じておられますか？

大塚…ヒトコトで言う、「若さ」ですね。青春時代に吹奏楽をやつたつてのもあるのかもしれませんが、敷居が低いのも吹奏楽の魅力ですし、いろんなジャンルの音楽を分け隔てなく出来るのが楽しみです。テューバ奏者としてオーケストラと比べて吹奏楽の楽しみは、一〇〇%音楽に常に参加できる事ですね。

今年もゴールデンウィークに「なにわオーケストラルウィンズ」に参加させていただきますけど、ある意味、吹奏楽には「アマチュアイズム」があるんです。僕らも、皆さんと同じ感覚でやっているんですね。オーケストラだと「これで給料もらつてよし」というのもあるんですが、東京佼成ウインドオーケストラの人を見て、なんかクラブ活動のよう、みんなでデニスに行つたりしていますよ。

— もし、中学生や高校生で今から楽器をやりたい人がいたとき、テューバの面白さをどう伝えられますか？

大塚…多分、多くのテューバ奏者がそうだと思うんですが、自分からどんな出て行つて、目立つことに生きがいを感じている人はそんなに居ないと思うんですね。今回みたいにソロをさせていたとしても、どちらかというと「相乗効果で何か面白いものが出来ることに喜びを感じる」んですね。

サリエッティのコンチエルトの場合、あのトロンボーンに自分はどうやって音を出していったら、あのピッコロのお姉さんとかのようにうまく絡んだら、面白くなるかなとかを考えますね。ブレンドの美学というかな。

多分、テューバの醍醐味でもあるし、他の低音楽器・内声楽器もそうだと思います。



テューバパートのメンバーと

けどバンドのサウンドないしオーケストラのサウンドを、自分が吹くことによつてある程度コントロールできる面白さがあります。

まさに、土台を支える、ベースを支える面白さですよ。もし、若い人たちにアドバイスするとしたら、「今はつまらないかもしれないけど、大人になればなるほど面白くなるよ、社会勉強にだってなるんだよ!!」つてことですかね。

— アマチュアだと、低音楽器の人が部長をやっているケースが多いのもそういう理由かもしれないですね。

大塚…そうですね、ソロ楽器やメロディ楽器とは違う視点で物事をとらえる事が大事なのかもしれませんね。

「一番下に居ますから「周りを生かす」面白さがありますからね。

でも、メロディ楽器をやつたら楽しかったらうな、という憧れは常にありますね（笑）。

— 最後に、演奏会に来られているお客様、今吹奏楽をやっている人たちにメッセージがあればお願いします。

大塚…ヒトコトで言えば、「ずっと続けてほしい」ですね。ひよつとしたらある時期は演奏に携われなくて、聴くだけになつちやうともあるかもしれないんですが、ずっと携わつてほしいですね。それは吹奏楽でもいいし、音楽でもいいんです。

中学とか高校で一生懸命頑張るすぎて、吹奏楽をやめなくなる人も多いという現実もあるんですが、本当の音楽の面白さは大人になつてからわかるのだと思うんです。

皆さんそれぞれのスタンスでいいので、どんな立場でもいいので続けてほしいと思います。

それは本気で思いますね。

…キレイなこと言つてないで、冗談のほうが良いですかね？（笑）

— いえいえ、とても良いお話を聞かせていただきました。お忙しい中、ありがとうございました。

意外と知らない!? テューバ雑学

おもしろテューバ〇×クイズ 正解と解説

★何問正解できたかな?

Q1 「テューバ」と呼ばれる楽器は、紀元前からあった?

答: 〇

もともと、ラテン語で「テューバ(チユーブ)」とは「管」を意味する言葉で、ローマ時代には既に楽器の名称として用いられており、旧約聖書にも記載があります。しかし、この「テューバ」は、一般的な「ラッパ」を指すもので、現在の一般的な金管低音楽器のことを指すわけではなかったのです。

Q2 テューバは管の長さが10メートル以上ある

答: ×

テューバは、金管楽器の中でもっとも低音域の楽器です。具体的には、小さい順にF(エフ)管、E♭(エス)管、C(ツエー)管、B♭(ベー)管の大きく四つの調の楽器があり、構造も様々です。

一番低音を出せるB♭管の場合、通常は約5メートル40センチなのですが、音程を替えるバルブを全部押すと、約9メートル60センチの長さの管を通ることになります。10メートルを超える事はないですが、かなり長い管を通して音を出しています。

ちなみに、吹奏楽で一般的に使われる管楽器で一番短いのはピッコロで、たった30センチ程度です。

Q3 テューバは金属でできているため、金管楽器である

答: ×

昔は名称通りだったのですが、楽器の改良・開発が進む中で、金管楽器は金属でできている楽器、木管楽器は木管でできている楽器という分類があてはまらない状況になってきました。具体的には、木管楽器のフルートやサクソスは管体が金属ですし、逆に、18世紀頃に金管低音楽器の役割を担っていた「セルパン」という楽器は、管体は木製でした。そのため現在では、「構造や発音のしくみ」によって分類されるようになりました。つまり、演奏者自身の唇を振るわけ、その振動を楽器に伝えて音を出す楽器が金管楽器、それ以外の管楽器を木管楽器と呼んでいるのです。

Q4 現在のテューバは、サクソフォーンと親戚関係にある

答: 〇

サクソフォーンを発明した、フランスのアドルフ・サククスさんが考案した「バス・サクソルン」と「コントラバス・サクソルン」という楽器は、テューバが現在の形に至る過程に大きな影響を与えました。

「バス・サクソルン」が改良され、「フレッチ・テューバ」と呼ばれるようになり、さらに「コントラバス・サクソルン」は、現在のアップライト型(楽器を構えた

時に、バルブと呼ばれる弁が直立した状態になる形)のテューバに大きな影響を与えたのです。

一方で、大塚先生のインタビューの中で話題になった「チンバソン」は、バス・トロンボーンをさらに大きくしたような楽器ですが、現在は作曲の過程においてあまり使われることはないようです。

このように、楽器は現在に至るまでに数多くの発明・融合・淘汰を繰り返しながら、絶えず相互に関連を持って発達・改良されてきたのです。

Q5 今回の客演の大塚先生の肺活量は、一般成人男性の平均と同じである

答: ★

テューバは、クラリネットやトランペットよりは息を多く使いますが、実はフルートに比べてたらずと少ない方だと言われています。けれど、楽器自体が大きいテューバを吹く場合、やはり肺活量が多い方が有利なことも事実でしょう。

一般成人の肺活量の平均は、男性は三〇〇〇cc〜四〇〇〇cc、女性は二〇〇〇cc〜三〇〇〇ccと言われていますが、果たして大塚先生の肺活量は具体的にどれくらいでしょうか? 答えは、演奏会の最中にインタビューしてみたいと思いますので、楽しみに!!

まちかね山吹奏楽団

今後の活動案内

○ 第61回吹奏楽コンクール

大阪府大会出演予定

2011年8月14日(日)

○ 第10回定期演奏会

2012年3月10日(土)

吹田市文化会館

メイシアター大ホール

株式会社 ビデオアップ

〒534-0015 大阪市都島区曾根寺町2丁目

6-14 田中旭ビル3階

Tel.06-6929-0874 Fax.06-6929-0873

http://www.video-up.co.jp/

Free Dial 0120-0874-74



残しておきたいあの日の感動...

